

	<h1 style="text-align: center;">進取の気概</h1> <p style="text-align: center;">（校長室だより）</p>	<p style="text-align: center;">有田市立箕島中学校</p> <p style="text-align: center;">自主 友愛 剛健</p>	<p style="text-align: center;">R4・5・11</p> <p style="text-align: center;">No. 7</p>
---	--	--	---

日本は世界でも自然災害が多い国として有名です。「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉があります。これは、「自然災害はその恐ろしさを忘れた頃にまた起こるものだから普段から油断せずに備えておかなければならない」という意味です。しかし、最近では毎年のように日本の各地で豪雨や水害、地震などの自然災害が発生しています。「忘れる前にやってくる」という感じがします。

5月2日に地震津波の避難訓練を行いました。訓練は、みなさん一人一人の大切な命を守るために行います。箕島中学校には、現在311名の生徒がいます。もし、ある日地震や津波が起きて、310名の生徒が無事だったとしても、1名の命が失われたとしたら……。「1名は仕方ないか」とは決して言えません。311名全員の命が無事だったとき、初めて「全員が無事だった。本当に良かった」と言えるのです。だから訓練は、全員が真剣に取り組まなければなりません。

自然災害は備えによっては被害を軽減することができます。「備える」とは「心」と「行動」の両面で備えるということです。地震や土砂崩れなど多くの自然災害はいつ起こるか予測が付きません。学校にいるときかもしれませんし、登下校中かもしれません。家にいるときかもしれませんし、寝ているときかもしれません。だからこそ、日頃からの「心」の備えが大切です。「心」の備えがしっかりしていれば、パニックにならずにすみます。「行動」についての備えも大切です。避難訓練に取り組むことも「行動」の備えです。そして、どんなに訓練しても訓練どおりにはいかない、このことをいつも頭において訓練することが大切です。また、事前に備蓄品や食料を用意しておいたり、倒れやすい大きな家具の近くで寝ないようにしたりすること、おうちの人と避難場所はどこにするのかなどを決めておくことも「行動」の備えとして大切です。

地震は減らせない。 でも被害は減らせます。

「ミドリ安全」新聞広告 2010年 コピーライター：高橋修身



〈津波の速さ〉 津波の速さは水深で決まります。海の深いところほどスピードが速く、深さ5,000mで時速800km、これはジェット機と同じくらいのスピードです。深さ100mのところでも時速110kmというスピードです。陸地に近づいてくると浅くなるのでスピードはおちますが、それでも、オリンピックの100mの選手が駆け抜けるほどのスピードでやってきます。気がついたときには逃げられないのが津波なのです。